

お使いになる前に

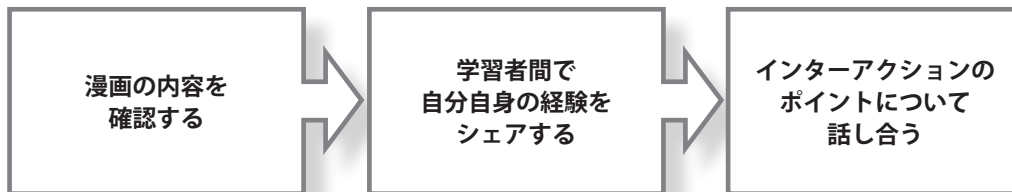
ここでは各課のインターアクションに関する接触場面の例（学習者が不思議だと思ったり、違和感を覚えたりする接触場面での出来事）を4コマ漫画で表しています。各課に3つの接触場面の例を取り上げました。ここに取り上げた4コマ漫画の例はすべて、学習者、日本人学生、教師の実際の経験が基になっています。特に学習者の視点を中心に、学習者たちが日本で経験し不思議だと思ったこと、驚いたことなど、クラスで話題になった例を多く取り上げています。

この漫画の主な目的は次の3つです。

- ① 各課の場面に必要な社会文化的、社会言語的、言語的なことについて気づきを促す。
- ② この4コマ漫画をきっかけに自分の経験や意見を話すことを通じて、場面と学習項目を身近に感じてもらい、学習意欲を高める。
- ③ 楽しい雰囲気での話し合い、自由に思ったこと、感じたことを言い合える場を作る。

授業の進め方と注意点は次の通りです。

●進め方



【漫画の内容を確認する】

まず、学習者が漫画の場面と内容を理解できているか確認をします。

この4コマ漫画は、学習者に自由に話し合ってもらうことが目的なので、教師は話し合うために必要な場面と設定についての補足のみを行い、教師のほうから『～がトラブルの原因ですね』という“正解”のようなものを提示しないようにしてください。

【学習者間で自分の経験をシェアする】

この活動は「これから学ぶインターアクションは、自分も生活の中で実際に行うものだ」と感じてもらう重要なステップです。漫画の内容、そして、課の学習内容を身近に感じてもらい、動機を高めるために、似たような経験のある学習者には、積極的に自分の経験を話してもらおうといいでしょう。友達の経験談、インターネットやテレビなどで見たり聞いた話などをシェアしてもらおうのもいいと思います。話しやすい雰囲気をつくるために、まず教師が自分の経験を話したり、他の人から聞いた話をしたりしてもいいでしょう。

【インターアクションのポイントについて話し合う】

- 各課の漫画例に取り上げられた社会文化的、社会言語的、言語的な要素を中心に、インターアクションの問題点や重要性について気づきが生じるように話し合います。詳細は各課のPDFを参考にして下さい。
- 話し合うときに、さらに具体的な設定が必要な場合は、必要に応じて設定を追加していただいても構いません。また、できるだけ学習者に場面を身近に感じてもらえるように、学習者に身近な場面や状況を中心に話し合っただけであればと思います。

●注意点

- 学習者が日本語を使って参加する接触場面での出来事は、実は日本語母語話者にとって未知のことが多いのです。それは、例えば、日本語母語話者は相手が非母語話者だとわかると、日本語母語話者に接する場合とは異なる対応をすることがあるからです。それゆえ、学習者の経験談や感想から接触場面での出来事や、経験したときの学習者の気持ちについて、理解し、学ぼうとする謙虚な姿勢を持つことが大切です。
- ここに挙げた例は典型的な例ではありませんので、「日本人は／～人はこうです」というように、断定的な言い方をするのではなく、「こういう人もいる」というような言い方や、反対の例を補足して、ステレオタイプを助長しないように注意しながら説明を行ってください。
- 話し合いの際に、意見が衝突することもあるかもしれません。ここでは、いろいろな意見があることを知ることも重要です。どちらが正しいかを話し合うのではなく、「なぜそのように考えるのか」「どうしたら日本語でより良いインターアクションになるか」などについて話し合うといいでしょう。
- 教師は学習者の意見を引き出すサポーターの役割を担い、いろいろな意見が出た場合には、「この課を通して考えましょう」などのようにして進めるといいと思います。